

# MCK&HuSIC kit for Darwin(Panther MacOSX10.3.x)

ファミコン音源ドライバ[MCK](#)と PCEngine音源ドライバ[HuSIC](#)の

MacOSX用環境とバイナリのセットです。

オリジナルのMCKは[Izumi](#)氏の製作です、著作権もこの方に有ります。

オリジナルのmckcは[Manbow-J](#)氏の製作です、著作権もこの方に有ります。

オリジナルのHuSICは[某吉](#)氏の製作です、著作権もこの方に有ります。

その他もろもろ色んな方による製作です。

素晴らしいToolを作ってくれた方々にまず感謝しましょう。

---

## ■まずはKitのDownloadとInstall

### MCK\_HuSICkit [Download](#)

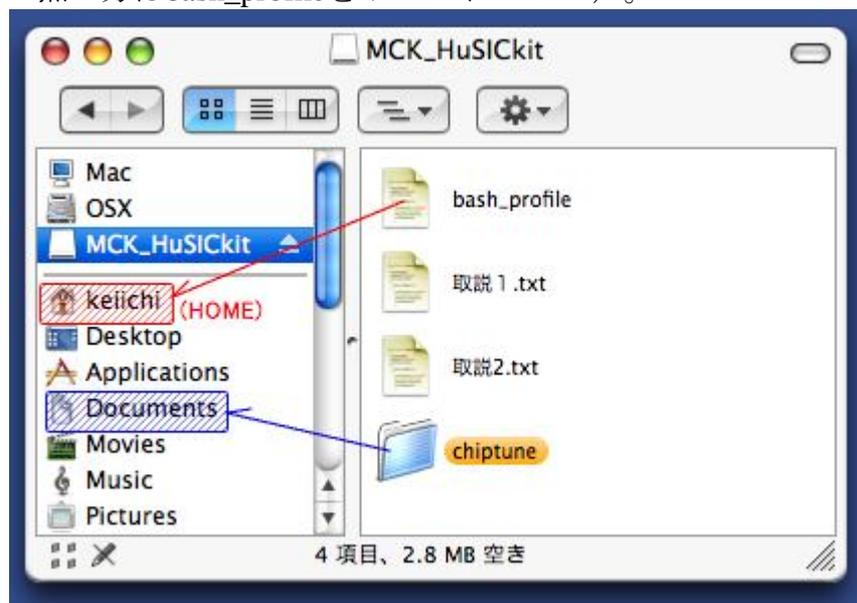
動作環境 : MacOSX10.3.x(OS8~9では使えません)

---

### ■環境を構築する :

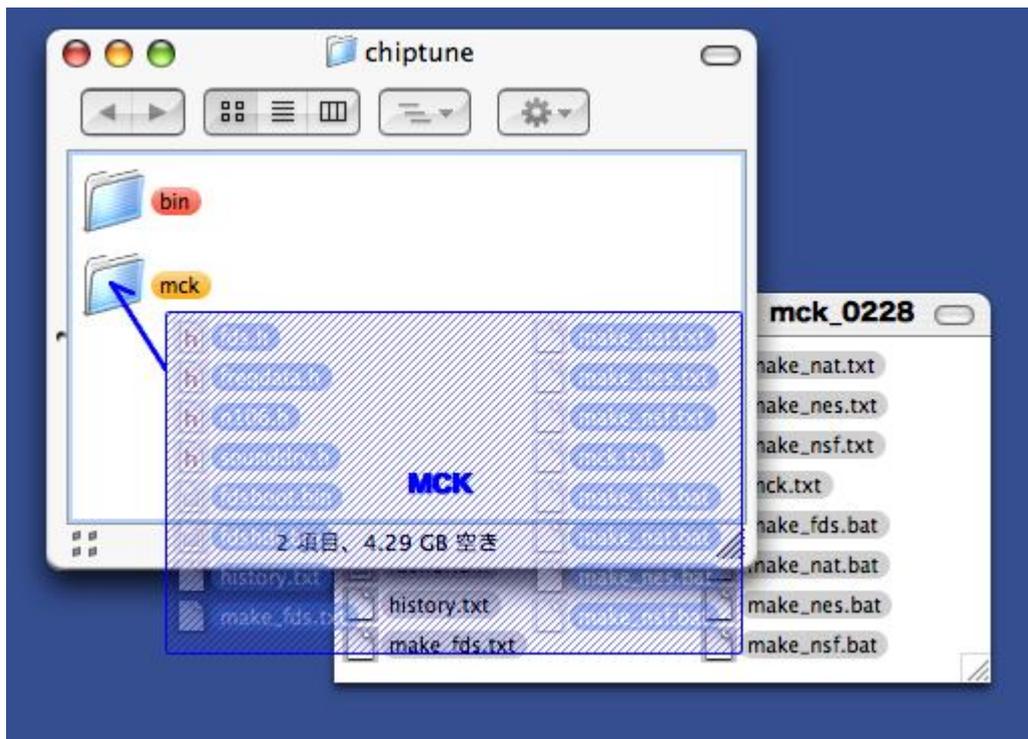
1:

Documents (書類) フォルダにchiptuneフォルダをコピーします (Terminalを使った事の無い方はbash\_profileをホームにコピー)。



2:

chiptuneフォルダ内のmckフォルダにお好みのmckのファイルをコピーします (フォルダの名前は変えないで下さい)。

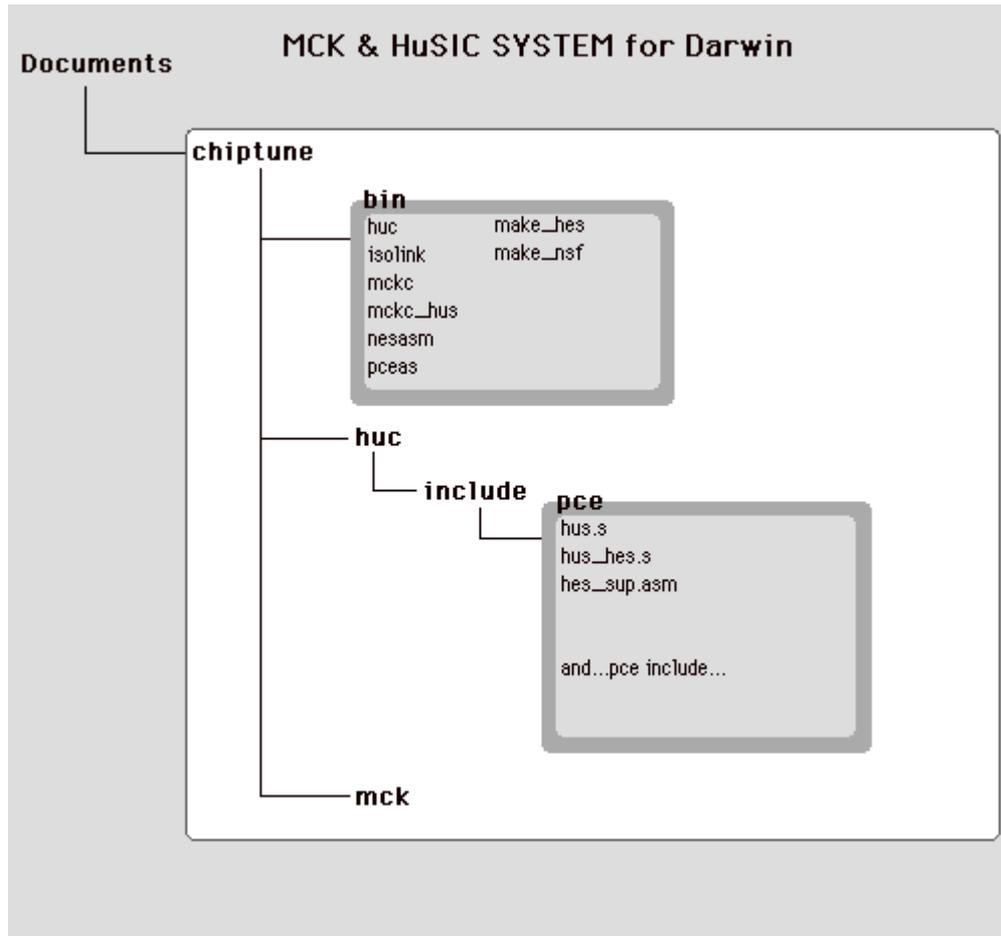


ここではオフィシャルのmck\_0228ですがお好みでパッチ版を加えても良いです。

3:

HuSICを使いたい人はHuSICとHuCライブラリを入手してhuc/include/pce/hus\_hes.sとしてchiptune以下に hucフォルダを置いて下さい。

全体的に以下のような構成になりますが、あくまでひとつの例です。



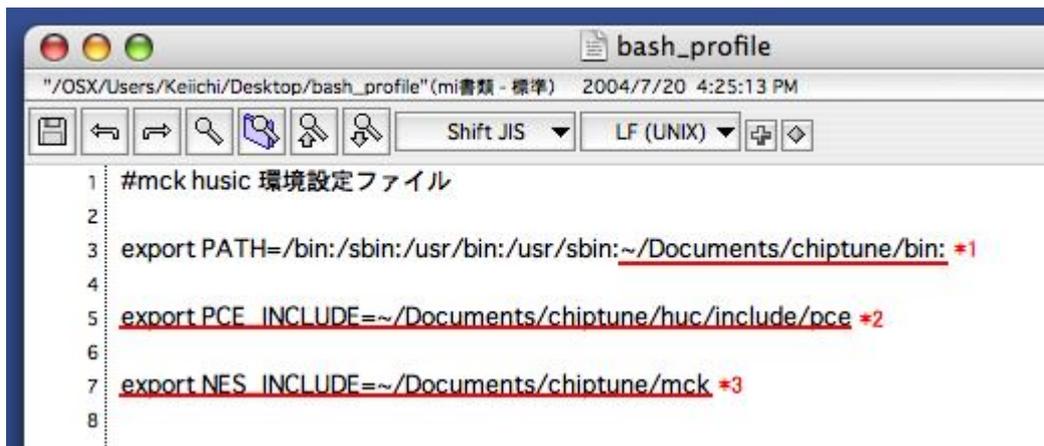
#### ■環境設定：

パスを通しま〜す。

```
export PATH=~/Documents/chiptune/bin
export NES_INCLUDE=~/Documents/chiptune/mck
export PCE_INCLUDE=~/Documents/chiptune/huc/include/pce
```

Terminalでの作業です10.3ではデフォルトシェルのbashです  
よくわからん人は気にしなくてもいいですがカーソルの手前が \$  
になってればOKです。

Kitにbash\_profileを同梱しているのでそれをHomeに置くと楽です（取説2参照）。



```
1 #mck husic 環境設定ファイル
2
3 export PATH=/bin:/sbin:/usr/bin:/usr/sbin:~/Documents/chiptune/bin: *1
4
5 export PCE_INCLUDE=~/Documents/chiptune/huc/include/pce *2
6
7 export NES_INCLUDE=~/Documents/chiptune/mck *3
8
```

\*1 : Kit用に新たに追加するパスです。mckcやnesasmのDarwin版が入っている bin ディレクトリへのパスです。

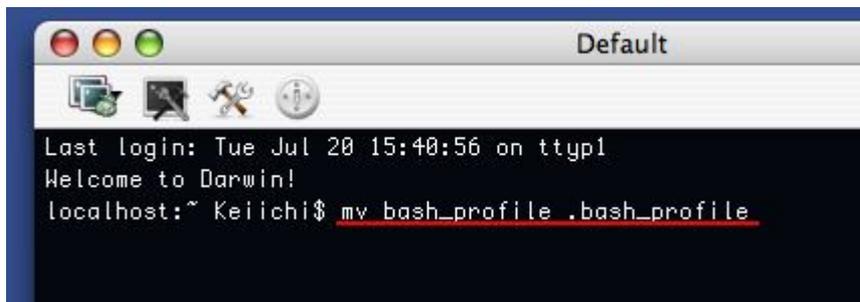
\*2 :

pceas (kit同梱) でアセンブルする際に使用する書類を収納したディレクトリへのパスです。

\*3 :

nesasm (kit同梱) でアセンブルする際に使用する書類を収納したディレクトリへのパスです (というかmckへのパスです)

確認して保存したらTerminalを起動して (アプリケーション/ユーティリティ/ターミナル)



```
Last login: Tue Jul 20 15:40:56 on ttty1
Welcome to Darwin!
localhost:~ Keiichi$ mv bash_profile .bash_profile
```

`mv bash_profile .bash_profile`

として下さい。

既に**.bash\_profile**があつて独自設定をされている方はご注意ください！！うむを言わさず上書きされますので。

分からない人は `open ~/.bash_profile` と打って確認してみてください。

1: No such file と出れば既存の設定無しという事です。

2: なにか書類が開いた時は上記の `mv` はやらないほうがいいです。

分かる人 : 既に自前で**bash\_profile**を設定している方は上記Pathを追加して頂ければよろしいかと思ひます。

#### ■使い方 :

Terminalを起動して変換したいmmlがあるフォルダ (unix/Darwin的にはディレクトリと呼びたい) までcdで移動します。

分からない人はcdと打った後スペースをひとつ入れて、Terminalウインドウにmmlが置いてあるフォルダをドラッグ&ドロップ&リターンキーでもいいです。

make\_nsfと打ち込んでリターンキー（HuSICの場合はmake\_hes）で自動でmckc,nesasmが変換を行います。

mmlに不備が無く変換に成功すると自動的にnsf（もしくはhes）が再生されます。

[こんな感じになれば成功！](#)

---

■免責：

本プログラムの使用により生じた損害等は当方では一切責任を負いません。

ご質問はこちら↓

MIDR2 ADVANCE

<http://midr2.under.jp/>